

岐阜市民の「生涯学習」を進めるためのアンケート調査

単純集計

市民参画部生涯学習室

1. 調査の概要

2. 調査結果の概要

1. 調査対象者の属性

- (問1 a) 性別
- (問1 b) 年齢
- (問1 c) 職業
- (問1 d) 居住地区
- (問2) 生活満足度

2. 生涯学習の現状等

- (問3) 用語「生涯学習」の認知度
- (問4) 「生涯学習」のイメージ
- (問5) 生涯学習の情報源
- (問6) 現在取り組んでいる生涯学習の領域とその方法
今後取り組む必要があると考える生涯学習の領域とその方法
- (問7) 生涯学習の成果の生かし方
- (問8) 生涯学習の阻害要因
- (問9) 施設の利用及び認知状況
- (問10) 長良川大学の認知度
- (問11) 生涯学習の環境づくり
- (問12) 生涯学習とまちづくり

3. 調査表

岐阜市民の「生涯学習」を進めるためのアンケート調査概要

1 調査の設計

- | | |
|-----------|-------------------------|
| (1) 調査地域 | 岐阜市 |
| (2) 調査対象者 | 岐阜市在住の20歳以上の個人 |
| (3) 標本数 | 2,000人 |
| (4) 標本抽出 | 無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵便法（依頼はがき1回、お礼・督促はがき1回） |
| (6) 調査期間 | 2006年6月7日～7月5日 |
| (7) 調査票 | 別紙参照 |

2 調査項目

- (問1) 性別【問1 a】、年齢【問1 b】、職業【問1 c】居住地区【問1 d】
- (問2) 生活満足度
- (問3) 用語「生涯学習」の認知度
- (問4) 「生涯学習」のイメージ
- (問5) 生涯学習の情報源
- (問6) 現在取り組んでいる生涯学習の領域と方法、今後取り組む必要があると考える生涯学習の領域と方法
- (問7) 生涯学習の成果の生かし方
- (問8) 生涯学習の阻害要因
- (問9) 施設の利用及び認知状況
- (問10) 長良川大学の認知度
- (問11) 生涯学習の環境づくり
- (問12) 生涯学習とまちづくり
- (問13) 自由筆記

3 回収結果

- (1) 調査対象者 2,000人
 - 内 調査票未達者 17票
 - 調査票到達者 1,983票
- (2) 回収数 996票
- (3) 回収率 50.23%

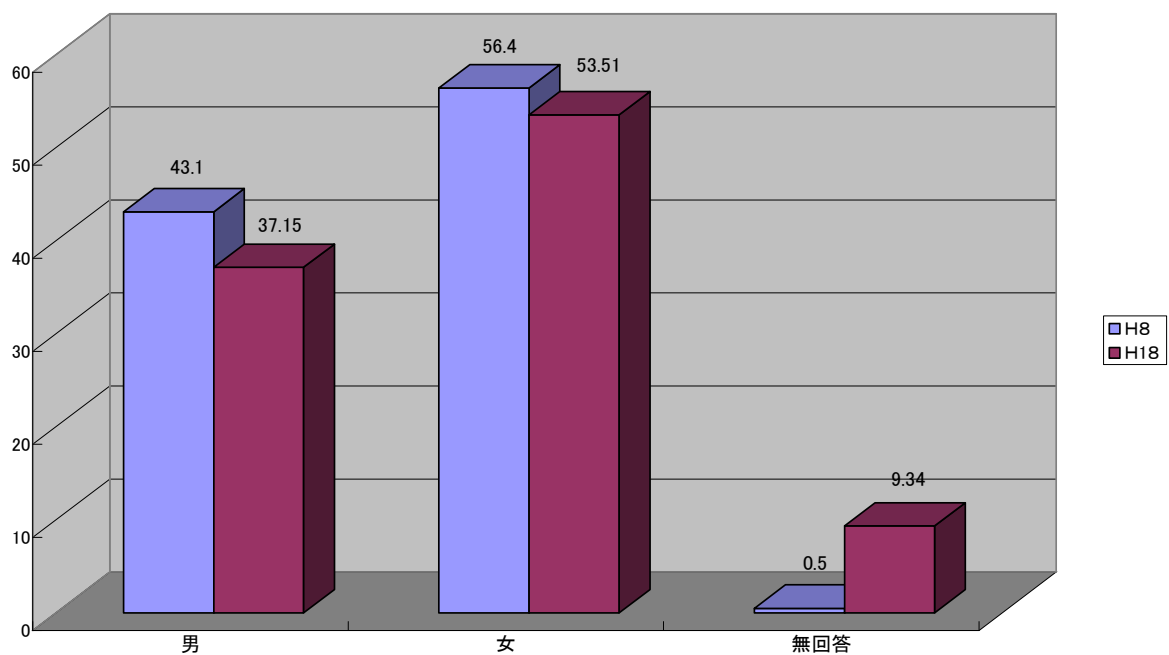
平成18年度 岐阜市の生涯学習に関する調査について

1. 調査対象者の属性

【性別】

平成18年度調査では、男女ともその構成比率が平成8年度（平成8年度に生涯学習に関する調査を実施）に比べ減少している。これは平成18年度で無回答が多かったのが要因と考えられる。無回答が多かった原因としては、設問の見落としが考えられ、質問項目の配置・レイアウトに配慮が足らなかったためと思われる

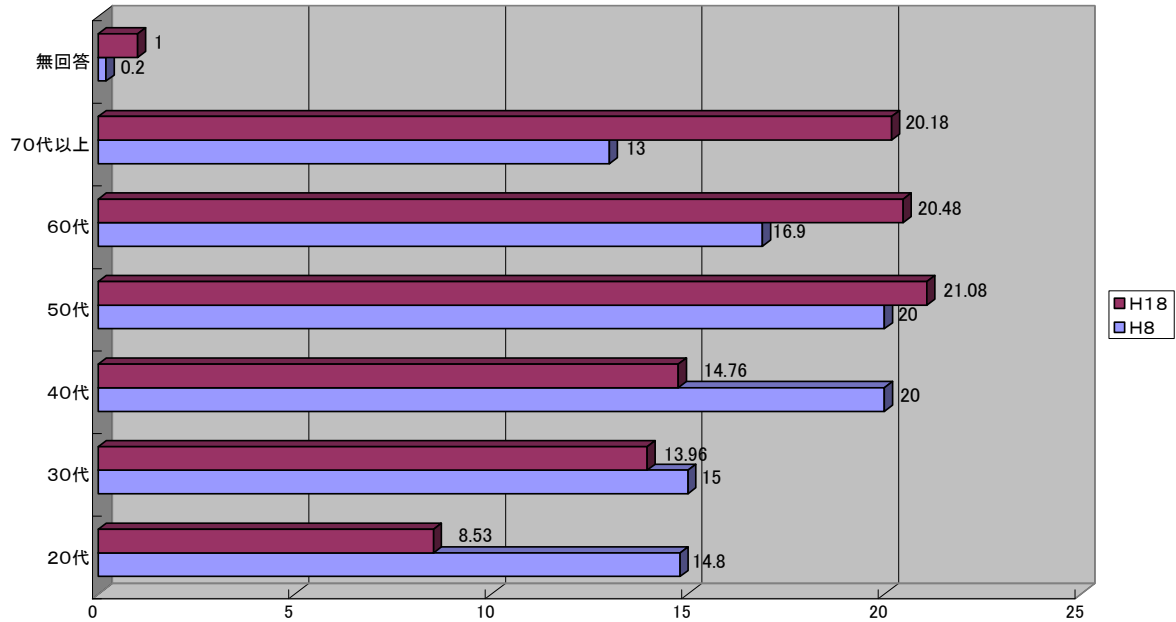
性別（図1）



【年齢】

平成18年度は20代、30代、40代の回答率が低く、特に20代の回答率が低い。それに対して70代以上の回答率が高くなっている。

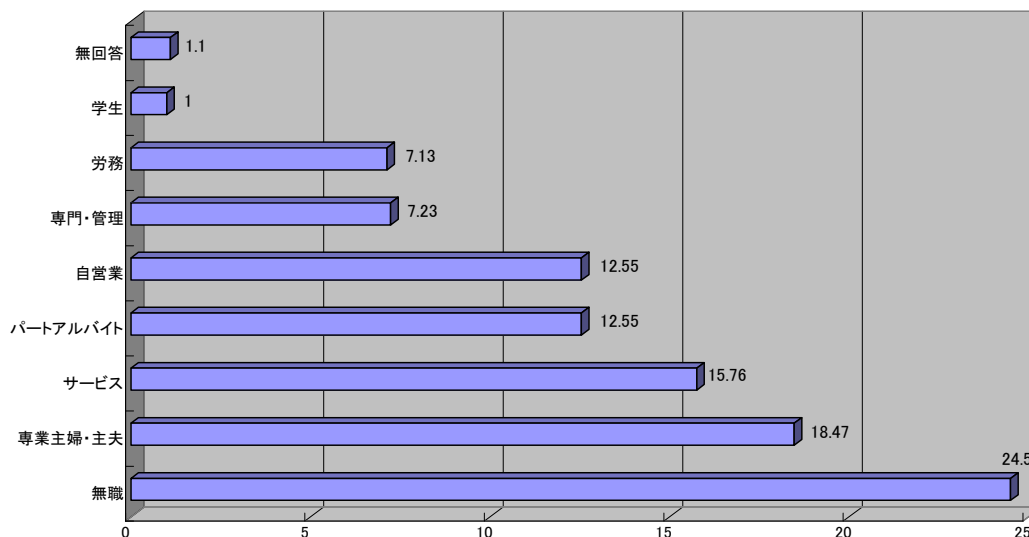
年 齢 (図2)



【職業】

無職が24.5%を占めた。これは、70歳以上の高齢者の回答率が高かったことが要因と考えられる。

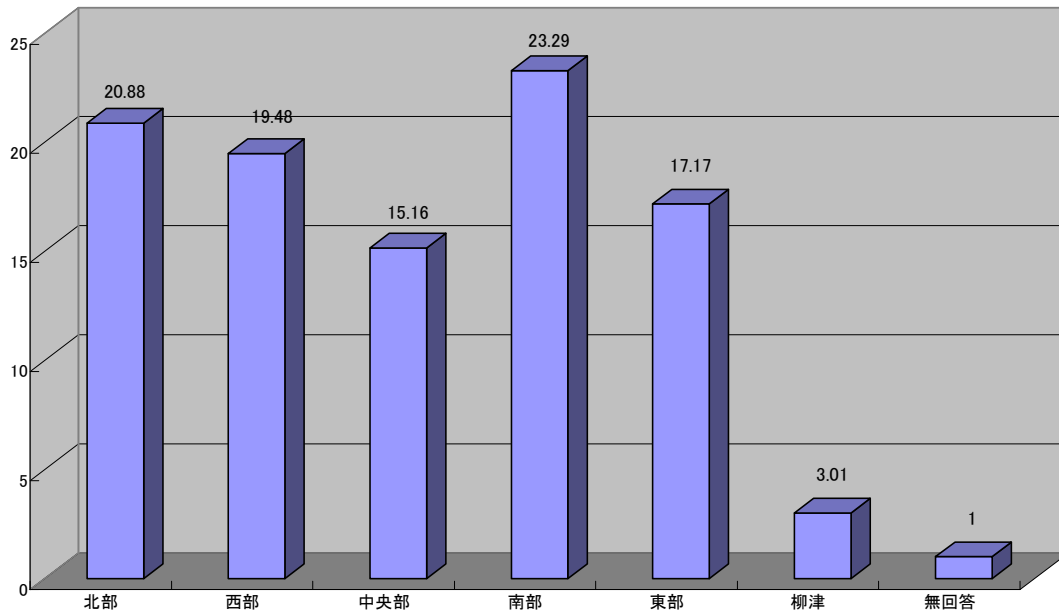
職 業 (図3)



【居住地】

岐阜市を5つのブロック及び柳津地区に分けて生涯学習の考え方の地域差があるかを調査した。

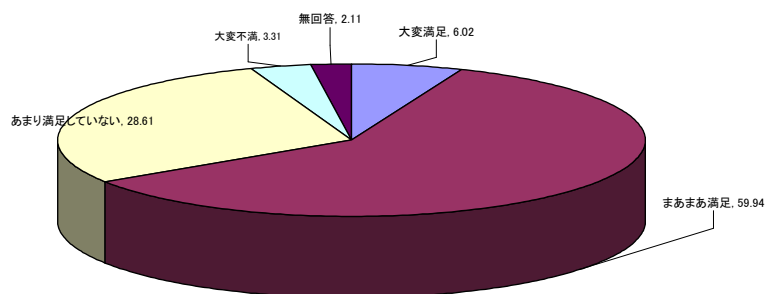
居住地(図4)



【生活満足度】

生涯学習の認知度や生涯学習の活動内容と生活満足度をクロス集計するため、今回の調査項目とした。

生活満足度(図5)

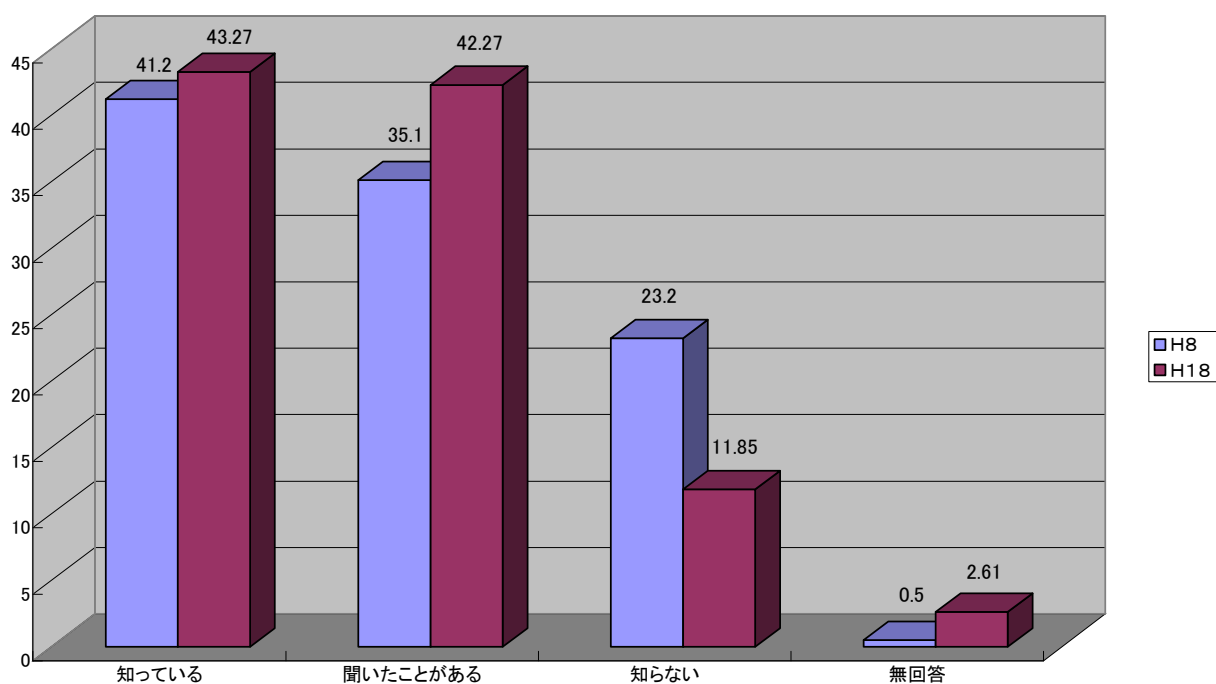


2. 生涯学習の現状等

【用語「生涯学習」の認知度】

平成8年度、平成18年度とも同じ質問項目で調査をした。「知っている」が2.1%増。「聞いたことがある」が7.2%の増加している。着実に「生涯学習」の認知度が高まっていると考えられる。

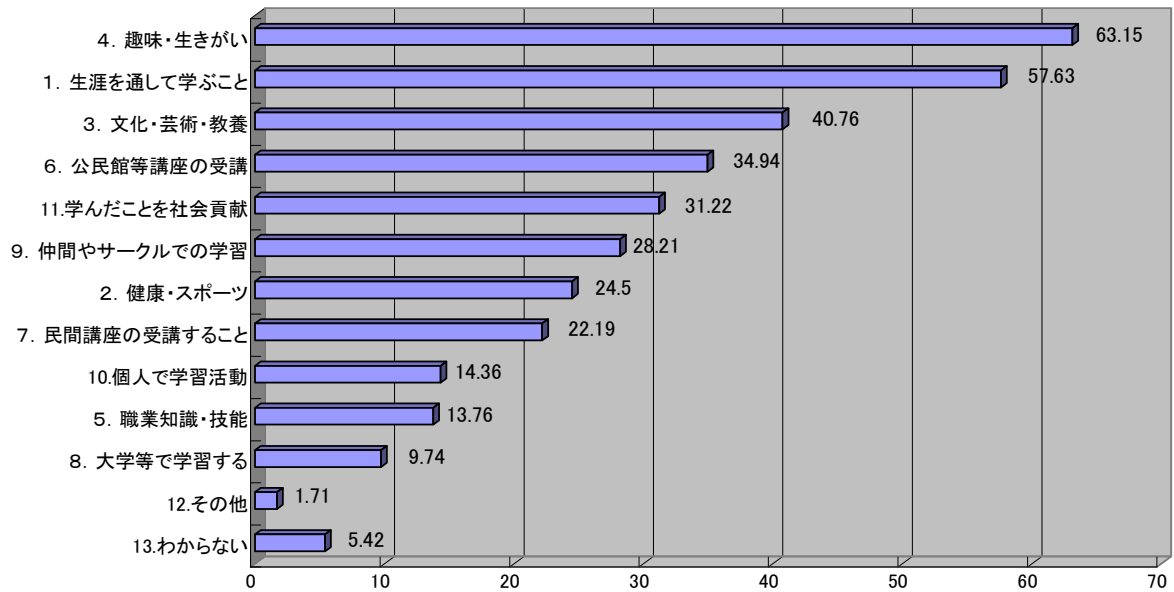
生涯学習の認知度(図6)



【「生涯学習」のイメージ】

平成18年度調査では趣味・生きがいをつくる活動をすることや生涯を通して学ぶこと、文化芸術活動を行うことや教養を高めることが生涯学習とイメージされる傾向が強かった。学習や活動の成果を地域社会に役立てるというイメージは3割弱の回答にとどまっている。

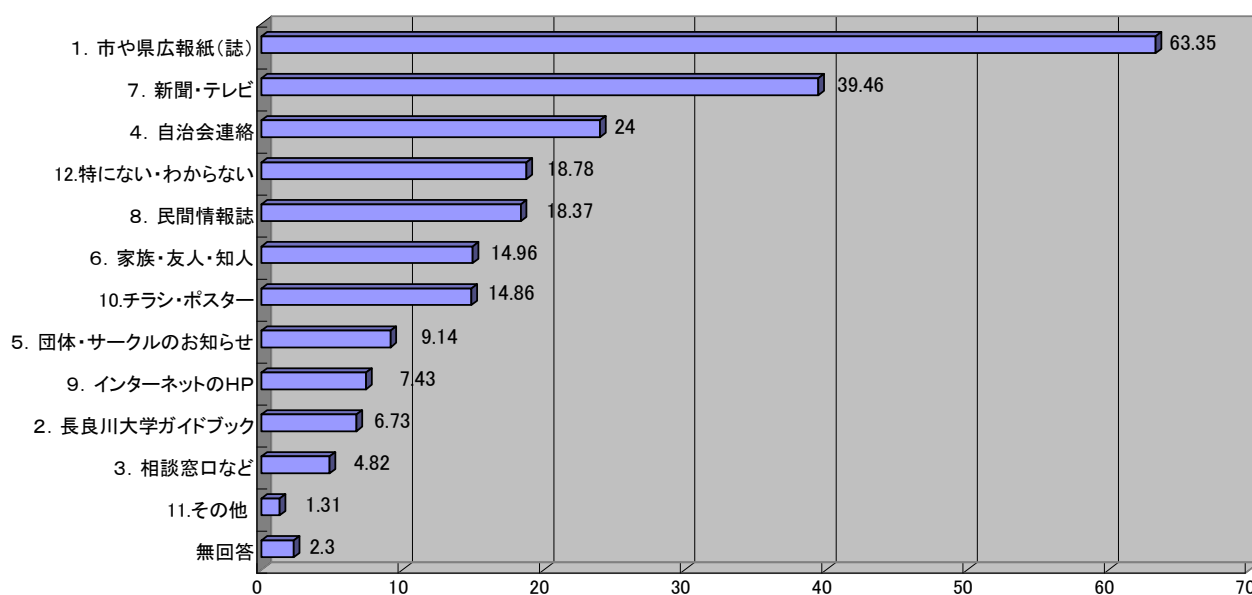
「生涯学習」イメージ(図7)



【生涯学習の情報源】

生涯学習の情報源としては行政が発行する広報誌が多く、新聞・テレビ、自治会等の連絡も多い。他方、平成18年度には家族・友人・知人からという回答が平成8年度調査に比べ減っており、パーソナルコミュニケーションが情報源となることは減りつつある。平成18年度調査では、コンピューターでの情報収集については7.4%あり、平成8年度調査から6.8%増加している。IT機器が情報源としての重要性を高めつつあるといえる。

生涯学習の情報源(図8)

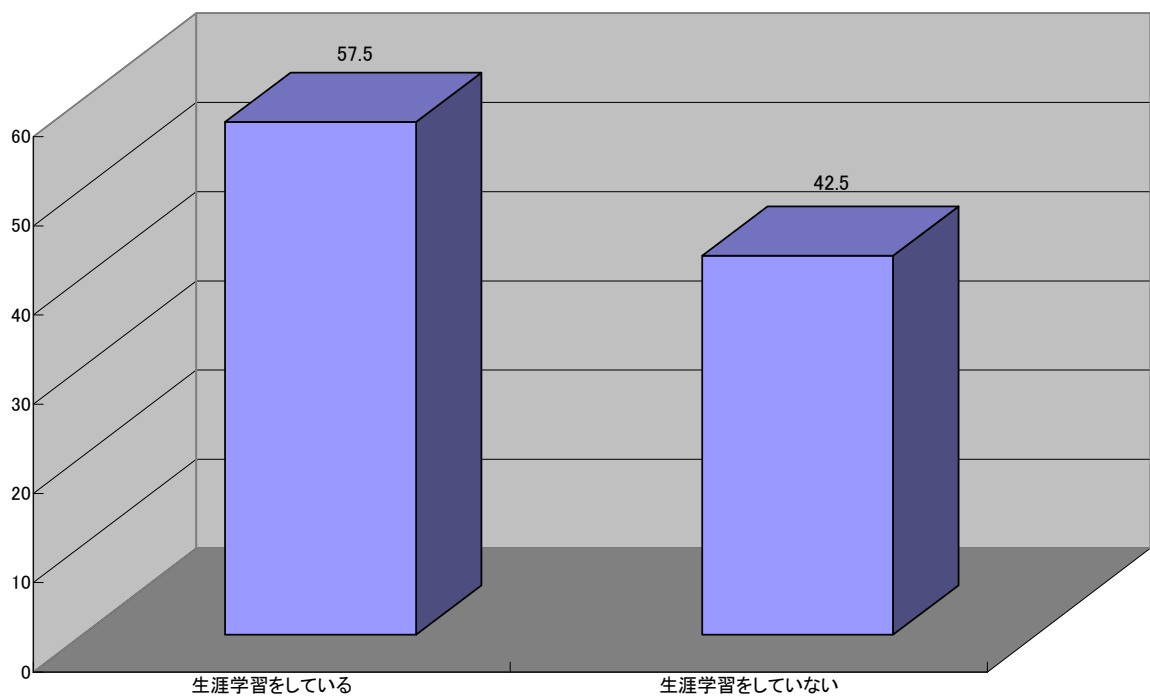


【生涯学習の活動の状況】

平成18年度調査では、問6において、現在取り組んでいる生涯学習とその取り組み方、今後取り組む必要があると考えている生涯学習とその取り組み方を聞いた。この設問で生涯学習に関わる10の領域を列挙し、そのいずれかの領域で現在取り組んでいると回答した者を生涯学習をしている者と捉えている。今回の調査では57.5%の方が何らかの形で生涯学習をしていると回答している。

調査では60歳以上の高齢者の割合が高かったことを考えるならば、市民の生涯学習への取り組みは進みつつあるといえよう。

生涯学習活動(図9)



【現在取り組んでいる生涯学習の領域、今後取り組む必要があると考える生涯学習の領域】

生涯学習の領域

ア. 各種資格取得等、職業上必要な知識・技能	5.8%	④
イ. 料理、洋裁等、家庭生活に役立つ知識・技能	2.7%	⑧
ウ. 育児、教育問題等、子育てに関するもの	3.3%	⑦
エ. ボランティア・NPO活動やまちづくりに必要な知識・技能	9.5%	③
オ. 趣味や芸術に関するもの	-2.2%	⑩
カ. 健康・スポーツに関するもの	3.8%	⑥
キ. 文学・歴史などの文化や自然科学の教養に関するもの	5.7%	⑤
ク. パソコンなどの情報化社会に対応するための知識・技術	10.3%	②
ケ. 外国語の会話などの国際交流・国際理解に関するもの	10.5%	①
コ. その他	-0.4%	⑨

※%は今後取り組む必要があると考える生涯学習の領域の比率から現在取り組んでいる生涯学習の領域の比率の差を示している。○数字はその差が大きい順を示している。

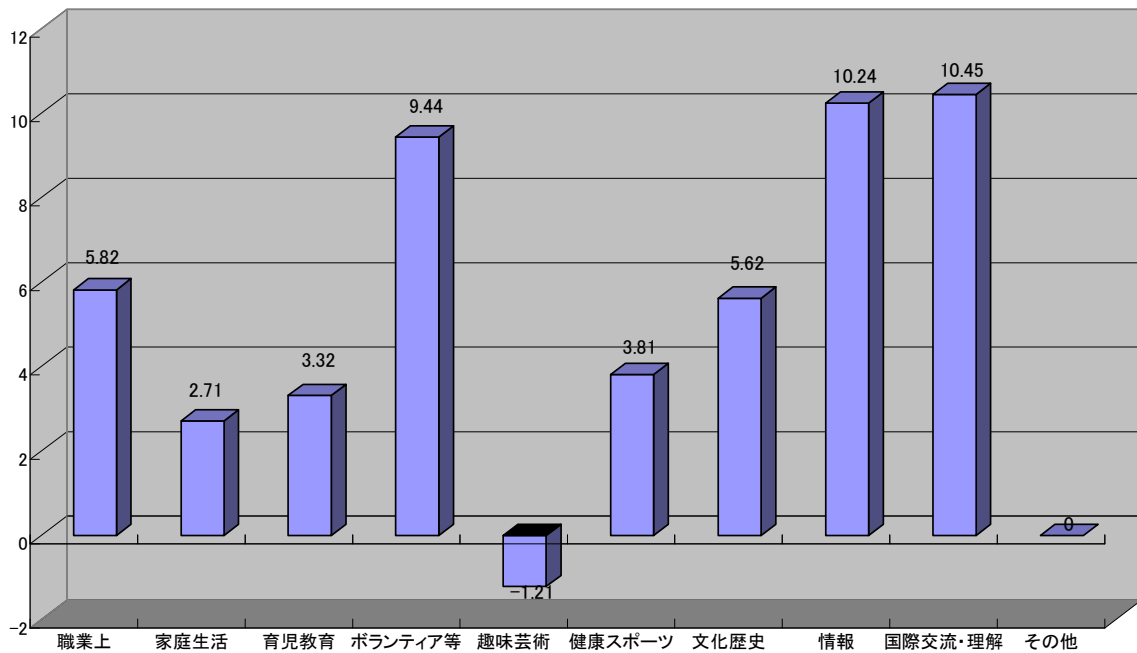
例えばケ 外国語の会話など国際交流・国際理解に関するものを今後取り組む必要と考える方は16.4%、現在取り組んでいると回答した方は5.9%その差が10.5%である。①は10の領域で差が一番大きかった領域であることを示している。

他の市町村のアンケートや県政モニターのアンケートでは、生涯学習の需要（現在行っている学習）と今後の生涯学習の希望を聞いている例が多い。今回、アンケート調査をする際、今後の希望を聞くのではなく、「今後、取り組む必要があると考える生涯学習の領域」を尋ね、市民が生涯学習について何を必要としているかを明らかにしようとした。

（図10）は、取り組む必要があると考える生涯学習の各領域の比率から現在取り組んでいる生涯学習の各領域の比率を引いたものである。

現在取り組んでいる生涯学習の領域と今後取り組む必要があると考えている生涯学習の領域には違いがあることがわかる。ケ. 国際交流、ク. 情報化社会の対応、エ. ボランティア・NPO活動・まちづくり活動に必要な知識・技能については、現在あまり取り組まれていないが、今後必要だと考えられている領域であり、趣味・教養的な生涯学習よりも「現代的課題」の解決のための生涯学習が今後は必要だと考えている人が多いことがわかる。

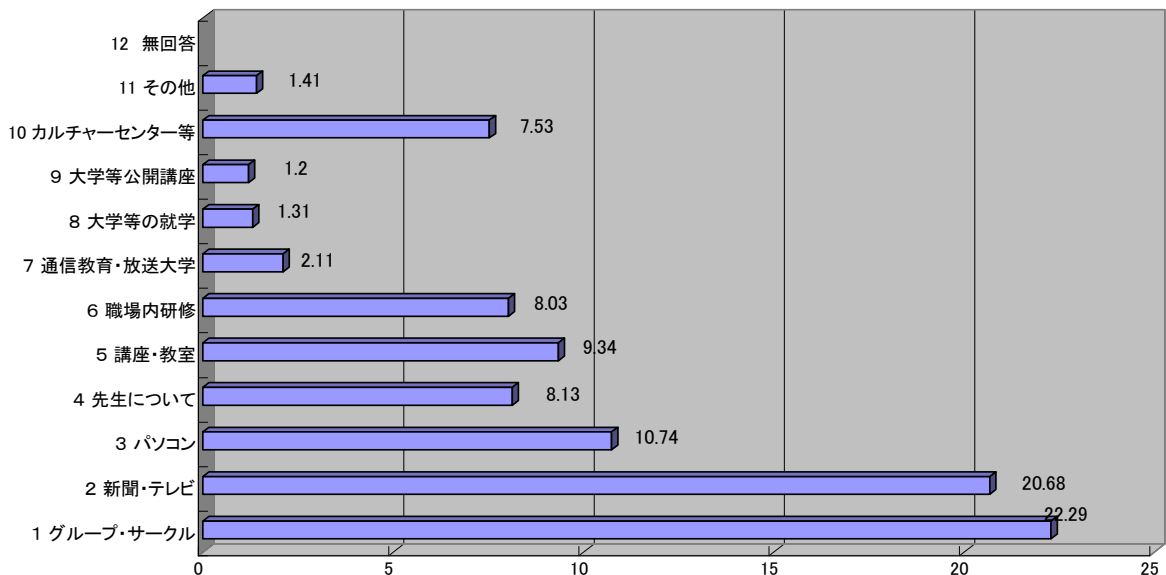
学習必要認知度－現在学習活動率(図10)



【現在取り組んでいる生涯学習の方法】

現在取り組んでいる方法としてクラブ・サークル、新聞・雑誌・テレビといった個人学習的取り組み方が多かった。なお、パソコンとする回答が2割弱あり一定の割合を占めている。情報通信技術の利用が飛躍的に多くなっている傾向がうかがえる。

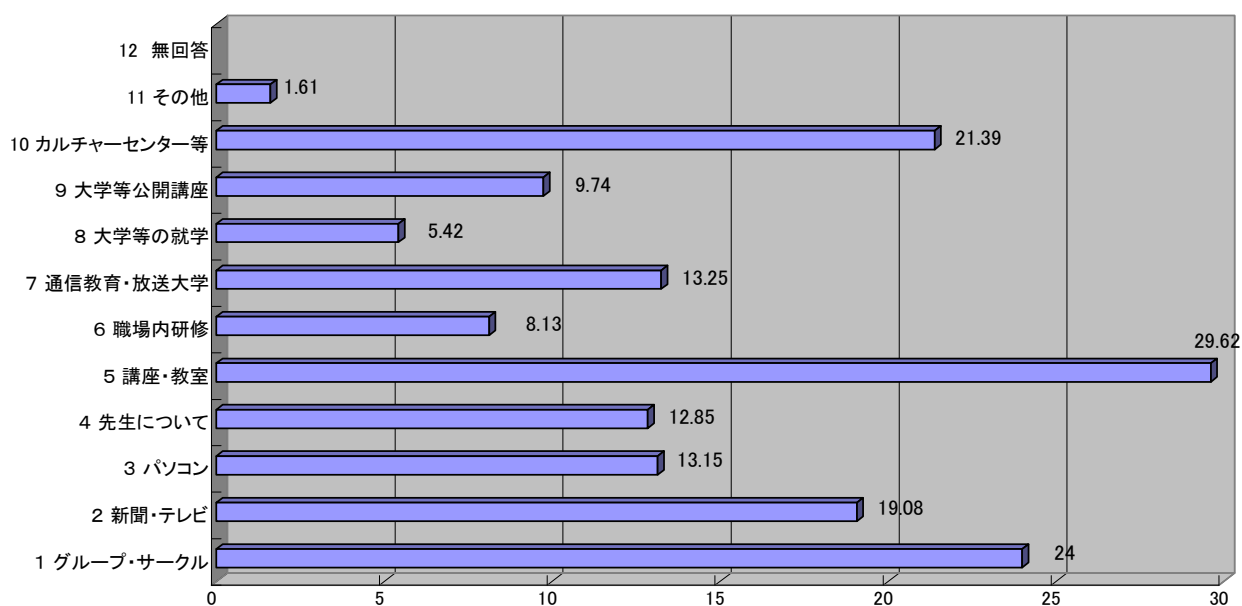
現在取り組んでいる生涯学習の方法(図11)



【今後必要と考える生涯学習の方法】

「今後取り組む必要があると考える生涯学習の方法」では、前述の「現在取り組んでいる生涯学習の方法」として高い割合で挙げられた個人学習的な方法だけでなく、講座・教室、カルチャーセンター、通信教育・放送大学などが上位に入っており、高度で系統的な学習の方法が望まれている傾向がうかがえる。

今後必要と考える生涯学習の方法(図12)

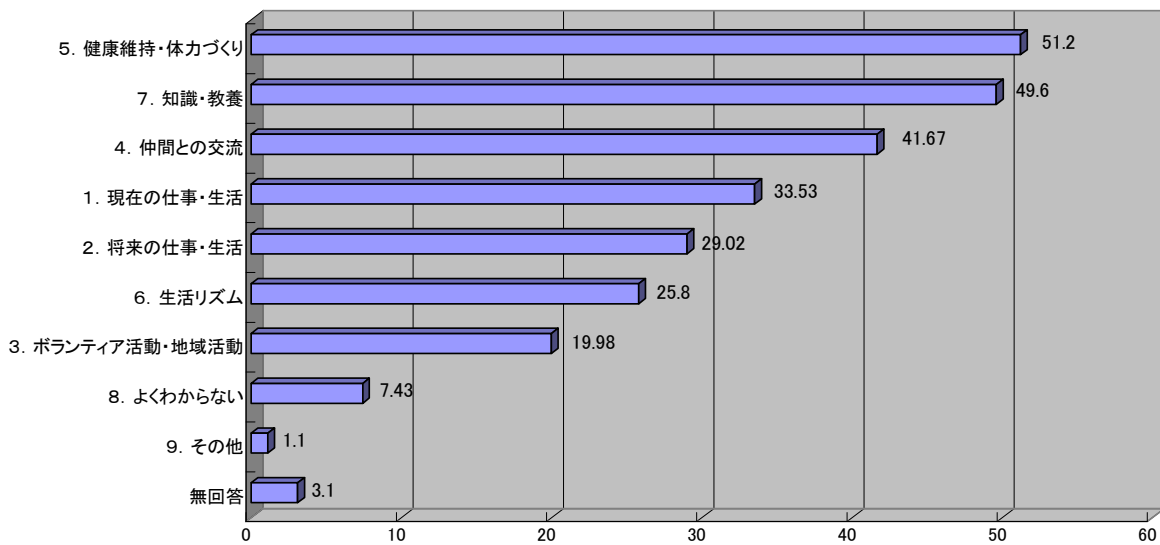


【生涯学習の成果の生かし方】

生涯学習の成果の生かし方としては、健康づくり、知識・教養、仲間との交流、現在や将来の仕事・生活に役立てるといった、やはり個人レベルで成果を生かしたいという回答が多い。

ただし、ボランティア活動や地域活動に役立てるといった、成果を地域社会に還元したいとする回答が2割あり、10年前の（平成8年度調査）調査では、地域社会への貢献といった回答がごく僅かであったのと比べ、生涯学習の成果を社会に還元していくという意識は確実に高まりつつあると思われる。

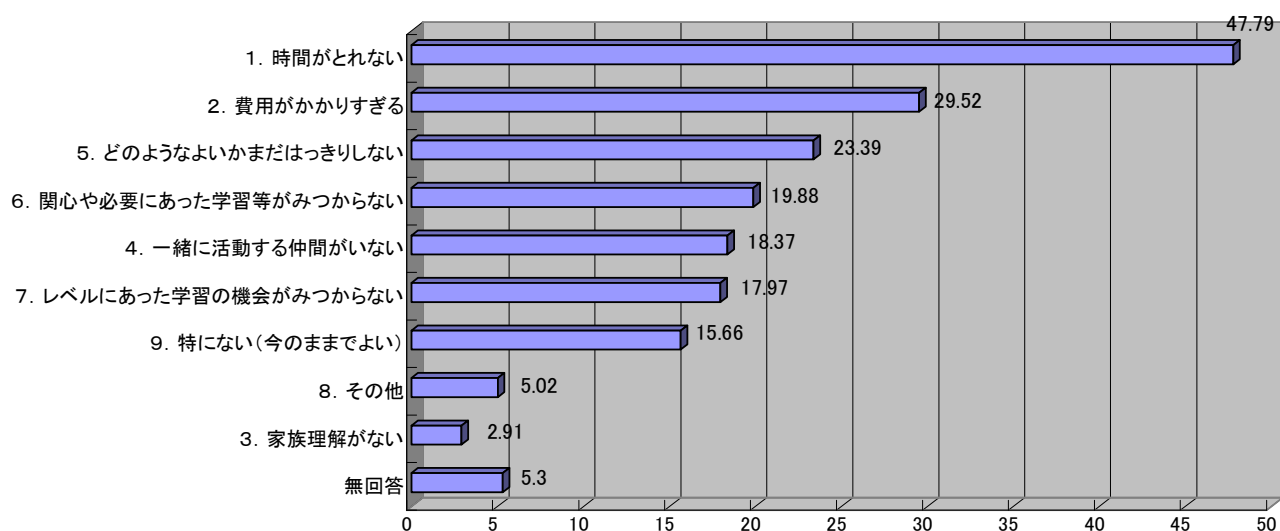
生涯学習の成果の生かし方(図13)



【生涯学習の阻害要因】

生涯学習の取り組みを妨げる要因については、「時間がとれない」という理由が最も多く挙げられている、余暇・自由時間が増大していると言われながらも、今日においてもなお、時間的余裕のなさが生涯学習の阻害要因となっていることがうかがえる。

生涯学習の阻害要因(図14)



【生涯学習施設の利用状況】

(利用度点数のつけ方)

施設の利用度点数は「より利用する」を3点、「時々利用する」を2点、「その施設は知っているが、あまり利用しない」を1点として、各回答者数を乗じて算出した。従って、「その施設のことは知らない」との回答及び「無回答」は、各施設利用度点数には反映されていない。

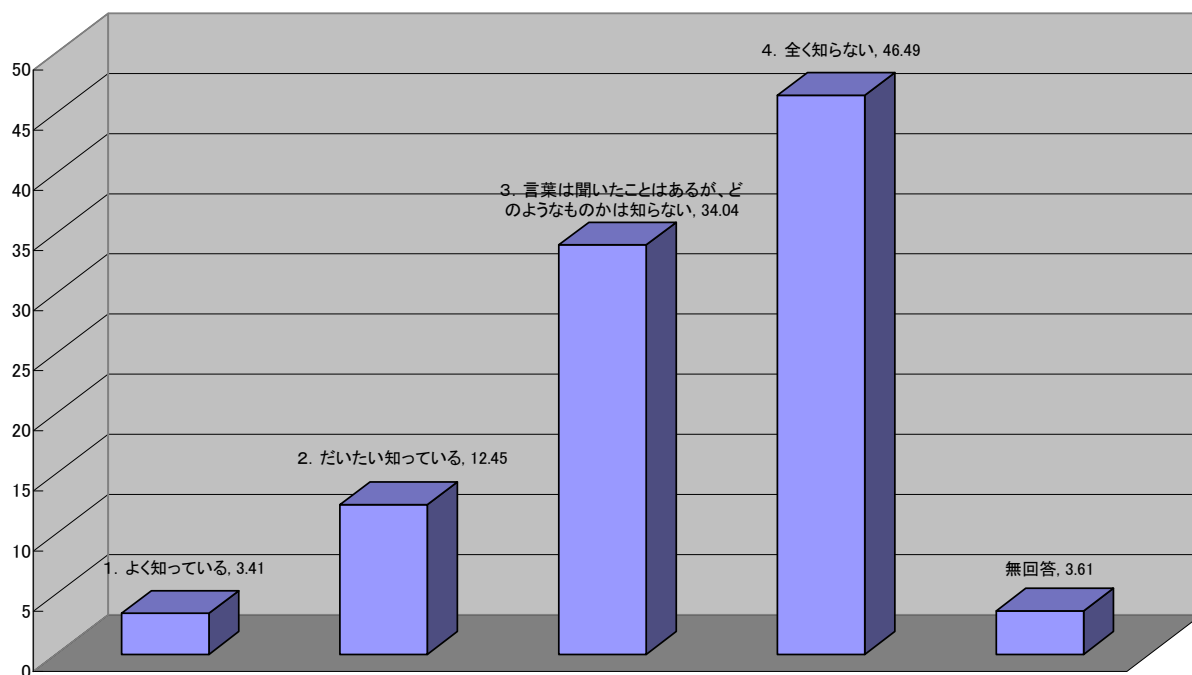
順位		施設名	得点
1	サ	公民館	1,070
2	ク	市立図書館（本館、分館）	1,017
3	シ	コミュニティセンター	880
4	ケ	歴史博物館	841
5	エ	市民会館	824
6	ウ	文化センター	804
7	キ	科学館	767
8	チ	小中高等学校の施設	650
9	ツ	保健センター	619
10	ソ	市民体育館	584
11	ア	ハートフルスクエアG （生涯学習センター・女性センターなど）	571
12	テ	児童館・児童センター	550
13	カ	少年自然の家	539
14	オ	ドリームシアター岐阜	512
15	タ	市立屋外運動施設 （グラウンド・テニスコートなど）	496
16	ト	老人福祉センター	452
17	セ	青少年会館	398
18	ナ	市民福祉活動センター	306
19	ス	柳津の各コミュニティ会館	289
20	コ	柳津もえぎの里	230
21	イ	柳津生涯学習センター	124

【長良川大学の認知度】

長良川大学が開講して10年となるが、まだ市民の認知度は低い。「長良川大学」を「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した者は合計15.9%にとどまっている。

現在、長良川大学には10万9千人が受講し、延べ受講者は27万人に達しているが、認知度が高くなれば受講者数もより一層増えると考えられる。

長良川大学の認知度(図15)

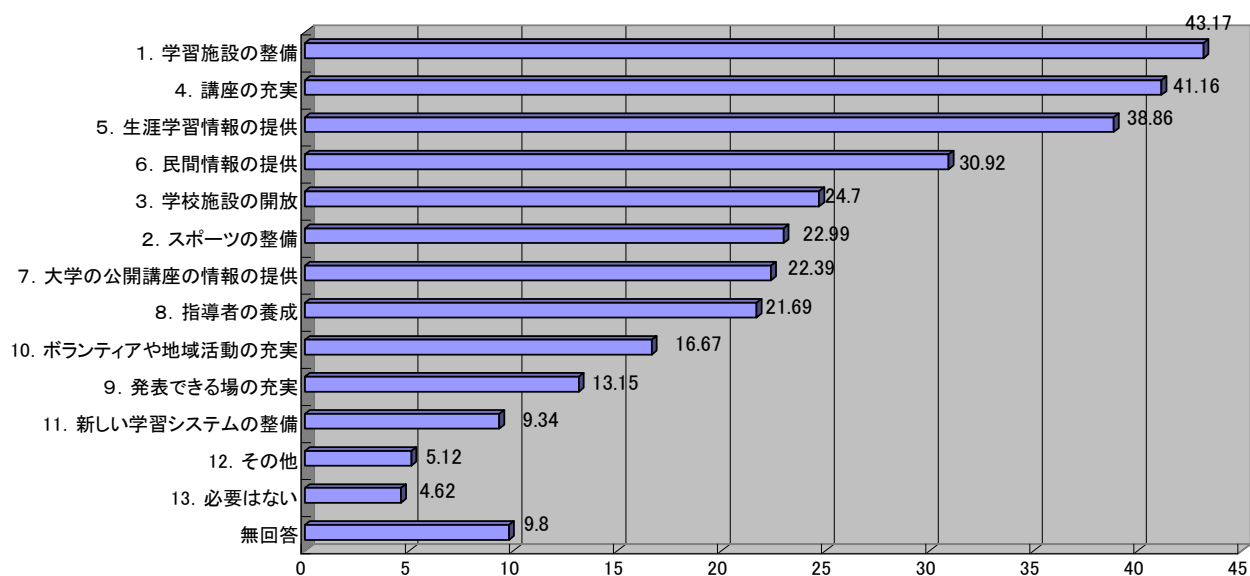


【生涯学習の環境づくり】

調査では岐阜市が市民の生涯学習を行いやすい環境づくりを今後進めていくうえで、どのようなことが大切だと思うかを尋ねた。

学習施設の整備、講座の充実、生涯学習情報の提供を求める声が多い。これは、10年前（平成8年度）の調査を比較してもあまり変化がない。

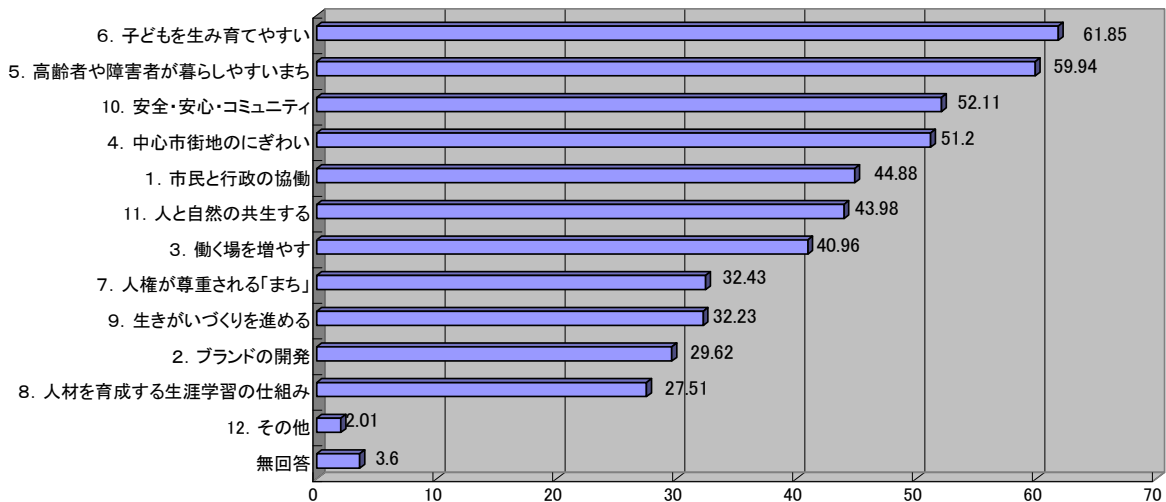
生涯学習の環境づくり(図16)



【生涯学習とまちづくり】

生涯学習は「現代的課題」といわれる現代社会が直面している諸問題を学習を通じて解決・克服していこうとする活動でもある。今回、将来、岐阜市に住んでいて良かったと思えるには、今後どのようなことを学び行動に結びつけていく必要があるかを質問し、「生涯学習とまちづくり」の課題について考える材料を得ようとした。結果として、「子どもを生み育てやすい『まち』をつくること」、「高齢者や障害者などが暮らしやすい『まち』をつくること」といった、ソフト中心の「まちづくり」に向けた生涯学習の必要性を指摘する声が強かった。

生涯学習とまちづくり(図17)



(分析) 岐阜市市民参画部生涯学習室

(監修) 岐阜大学総合情報メディアセンター生涯学習システム開発部門

※このアンケート調査は岐阜大学総合情報メディアセンター生涯学習システム開発部門と岐阜市市民参画部生涯学習室との「共同研究」で実施しました。

お問い合わせ先

生涯学習室

内線 6175・6176